

出会いから 満50年 花の宴

五十嵐 昭

皆様

本日、葛飾区の水元公園～柴又で、恒例の42会を開催しました。以下そのご報告です。

今年で再会(再開)後7回目になる42会は、2回目以降、花見の季節に開催してきました。水元公園も都内有数の桜の名所として知られますが、今年は都心の桜の開花宣言が3月16日に出されてしまいましたので、3月30日では桜吹雪か葉桜になってしまうかと案じておりました。ところが、ここの開花は都心より遅く、さらに、その後の冷え込みが桜の木に花びらをとどめてくれていました。それにしても、本日は予想以上に花冷えの一日でした。

10時50分にJR金町駅に集合。水元公園へのバスは、途中から桜のトンネルの中を走り抜けました。公園の中心近くでバスを降り、ウォーキング開始。そう、今日は会食の前に(散策ではなく)ウォーキングをしよう、ということで、皆の靴や服装もそれなりの出で立ちで集まっていました。というものの、寒さに対する備えは、人によりまちまちで、帽子、手袋をした人が勝ちでした。

水元大橋で広い池と対岸の桜並木を眺めてから、初夏にはそれぞれの花が咲く「スイレン池」と「はなしょうぶ園」、都内唯一の区有の梵鐘といわれる「松浦の鐘」、様々な金魚が水槽で遊ぶ「金魚展示場」、そして、枝一杯に花を付けたソメイヨシノの古木が並ぶ「桜土手」へと歩きました。まさに満開となったサクラの花びらが散り初めていました。



次いで、桜の密度が格別高い舗道を抜けて、江戸川ベリへ出ました。春のうらの江戸川とはいきませんでした。河川敷のゴルフ場や対岸のビル群、半分から上がかすむスカイツリー、近くに都民の水を賄う金町浄水場を見ながら、ウォーキングを続けました。

そのうちに、先頭と最後尾との間がだいぶ空いてしまい、矢切りの渡しで再集合。黒石板の歌碑を前に、みんなで「連れて逃げてよ・・・」とは歌いませんでしたが、波頭の立つ川を、乗客を乗せた手こぎ舟がこちらへ向かって来るのが見えました。

約1時間半のウォーキングで、柴又帝釈天の参道にある「川千家(かわちや)」に着きました。13時、恒例どおり42会産みの母・まとうの開会宣言、次いで今朝幹事と最初に出会った花田の音頭による乾杯で大宴会開始。乾杯のビールが、程よい歩きで程よく渴いた喉に心地よくしみましたが、ビールの追加注文はなく、自然と熱燗と焼酎のお湯割りに移行しました。なお、ビールのラベルにはスカイツリーが描かれ、麦焼酎の銘柄は「矢切りの渡し」でした。

鯉の洗いやら鯉こくやらの川魚料理に舌つつみを打ちながら、アルコールも程よく回ると、近況報告の始まり始まり〜っ。毎年のこととはいえ、話題に事欠くことはありません。それだけ皆さんが報告するに足る有意義な日々を送っているということの証だろう、などというかつこよすぎるかな。本人の話以上に余計なちゃちゃが入り、その賑やかさまでは、このメールでお伝えできないのが残念です。

3時間近くを過ごし、近年急速に貴重品化した「うな重」が出て、この日最後に幹事と顔を合わせた皆川による中締め、ではまだまだ解散には早く、続いて帝釈天に詣でました。帝釈天というと、「男はつらいよ」で御前様を演じる笠智衆や箒を手にした佐藤蛾次郎を想い浮かべる人も多いと思いますが、ここのお勧めは、庭園と「彫刻ギャラリー」です。閉館時間ぎりぎりに入れてもらい、回廊式の大庭園「邃溪園」を巡り、建物の内外に施された法華経説話を表すという装飾彫刻を鑑賞しました。

柴又といえば忘れてならないのは参道に店を並べる名物の草団子。初期の映画の舞台に使用した柴又の団子屋(「柴又屋」)が、その後屋号を「とらや」に変えてしまったので、映画の「とらや」の屋号が途中から「くるまや」に変わった、というのは嘘のようなホントの話。予定では団子屋もコースに入り、そこで打ち上げというつもりでしたが、川魚料理で膨らんだお腹に団子はつらいよ、ということでおみやげ用のだんご代が配られました。

最後に柴又駅前の寅さん像に挨拶してから、京成線の線路をはさんだ上下線のホームで、再開の気持ちを込めた手を振りあって別れを告げました。花冷えの一日でしたが、心は十分に暖まり、何よりも雨に遭わなかったのは幸いでした。

我々42会メンバーがWHCに入部(=早稲田に入学)したのは1963年ですから、この4月にはちょうど満50年になります。その昔出会った同期生が、こうして半世紀を

経ても桜の下に語り合える幸せを感じた一日でした。

本日の参加者は15名と、42会史上最多だった昨年の18名を下回りました。

不参加だった同期の仲間も、次の機会には会えることを期待しています。

